

令和7年度

第2回在宅医療・介護連携推進協議会

会議概要(要旨記載)

日時:令和7年10月8日(水)午後14時00分～

会場:健康福祉センター 3階 特別会議室

1 委員

小 野 宏 志 （ 浜名医師会 坂の上ファミリークリニック ）
牛 田 知 宏 （ 湖西市医会 牛田クリニック ）
山 村 孝 夫 （ 浜名歯科医師会 山村歯科医院 ）
塩 野 州 平 （ 浜松市薬剤師会 古見薬局 ）
内 山 大 輔 （ 浜名病院 ）
太 田 学 （ 市立湖西病院 ）
野 中 寛 奈 （ 浜名病院連携室 ） 欠席
夏 目 志津子 （ 市立湖西病院在宅支援室 ）
田 中 結 子 （ R.Y訪問看護ステーション ）
内 藤 加代子 （ 地域包括支援センター湖西白萩 ）
浅 井 恵 子 （ ケアプランセンター陽菜 ）
黒 木 昌 子 （ 社会福祉協議会 ）
河 合 みづほ （ 一円荘 ）
松 下 拓 未 （ ひなたぼっこ ）
山 下 いづみ （ 坂の上ファミリークリニック湖西 ）

<事務局>

竹 内 通 晃 （ 健康福祉部高齢者福祉課長 ）
白 井 信 行 （ 健康福祉部高齢者福祉課長代理兼政策係係長 ）
吉 野 沙 織 （ 健康福祉部高齢者福祉課保健師 ）
松 井 美智子 （ 在宅医療・介護連携支援センター相談員 ）
伊 藤 左和子 （ 健康福祉部健康増進課健康政策係長 ）

2 会議次第

1. 開会 挨拶

2. 議事

- (1) 多職種研修会及び市民向け講演会について ……資料 1
- (2) 4つの場面ごとの目指すべき姿について ……資料 2
- (3) 在宅医療データベース調査アンケート
及びお助けブックについて ……資料 3

3.連絡事項等

次回の会議日程 令和 8 年 1 月 28 日（水）予定
会議内容 開始 14 時 00 分から

議事録概要

1. 開会の挨拶

課長代理：

- 本日、野中委員欠席。

2. 新委員の紹介

太田医師（市立湖西病院副院長兼外科部長）：

- 10月1日付で新たに委員に就任。
- 市立湖西病院では、地域支援病院として訪問診療や往診にも対応。外科、内科の専門医による体制が整っており、地域医療機関と連携し、患者に最適なケアを提供していく方針。
- 今後、在宅医療にも積極的に取り組む。

3. 議事（1）：多職種研修会及び市民向け講演会について

事務局の説明：

- **第1回多職種研修会**（7月15日）：市立湖西病院の感染管理認定看護師、平野さんを招き、感染対策研修を実施。36名の参加があり、手洗いや手指消毒、PPEの着脱などの基本的感染対策を学んだ。
 - 高評価を受けたが、職場環境の違いで実践が難しい点も指摘され、今後は具体的な工夫が求められる。
- **市民向け講演会**（9月28日）：訪問看護認定看護師、前田さんによる「訪問看護が支える在宅医療」をテーマに実施。参加者からは多くのポジティブな意見が寄せられた。
 - しかし、スライドの視認性やスピード感に対する改善要望もあり。

次回予定：

- **第2回多職種研修会**（10月22日）：聖隷三方原病院の森先生を招き、「ACPの重要性と実践」をテーマに第2回多職種研修会を開催予定。

4. 議事（2）：看取りの場面について

事務局の説明：

- 在宅医療と介護の連携が重要な**4つの場面**（療養支援、入退院支援、急変時対応、看取り）について検討。特に**看取りの場面**では、患者が望む場所で安心して最期を迎えるための支援を目指している。
- 目指すべき姿に対する達成状況を評価し、地域課題の解決に向けてPDCAサイクルを回すことが必要。

今回の協議のポイントは以下の2点。

- ・「目指すべき姿」の達成状況をどう測定するか、具体的な評価指標をどう設定するか。
- ・「3本の柱（市民の理解醸成／専門職の意識・スキル向上／体制・環境・連携）」がそれぞれ適切に設定されているか。

議論：

〈目指すべき姿・指標に関する意見〉

- ・ 「どれくらいの方が自宅での看取りを希望し、それが実現できているか」を把握することが重要。
- ・ 「在宅で看取られた人数」は数値化できる指標として有効であるが、**市民の希望や本人・家族の満足度など、数値だけでは測れない側面も評価に含めるべき。**
- ・ 専門職の意識やスキルの向上状況を把握するために、研修参加者数やACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関心を持つ人の割合を指標として検討するのも有効ではないか。
- ・ 一方で、「どこで看取るか」によって状況が大きく異なるため、単純な比較や一律の指標設定は難しい。
- ・ **指標の重要性：**看取りをどれくらい実現できているかを測る指標が求められる。数字だけでなく、専門職の意識やスキル向上も評価項目として考慮すべき。

〈専門職の連携と振り返りに関する意見〉

- ・ 看取りケースを経験しても、居宅支援事業所同士で情報共有や振り返りの場が少ない。共有の場があると良い。
- ・ 居宅事業所連絡会などで事例を共有し、チームでの振り返りを行うことが、地域全体の看取り支援の質向上につながる。
- ・ 職種によって視点や理解が異なるため、共通の指標や考え方をまとめる場を設けることが必要。

〈訪問薬剤管理指導に関する意見〉

- ・ 訪問薬剤管理指導の件数が増加しており、**薬の手配や在庫管理の見直しが必要**である。
- ・ 特に**麻薬は高額で在庫リスクが大きく、購入にも時間（1週間程度）を要するため、地域での調整や共通理解が不可欠。**
- ・ 「薬が準備できるかどうか」だけでなく、必要に応じて代替薬への変更や、**地域で使用する薬の種類をある程度統一する工夫も重要。**
- ・ 衛生材料についても、地域全体で共有・調整する体制を検討すべき。
- ・ 患者に不利益が生じないよう、気軽に相談し合える関係づくりが大切

〈データ活用・課題把握に関する意見〉

- ・ 看取りの数や場所など、出せるデータは整理して数値化することが必要。
- ・ データを積み重ねることで見えてくる課題も多く、振り返りと分析を継続的に行う

ことが重要。

- 独居や家族の支援が得られない方の支援体制を地域で統一できるようにしたい。

〈看取りに対する考え方・今後の方向性〉

- 本人は家で暮らしたいと希望しても、家族に介護力がない場合は実現が難しい。現実的な支援体制づくりが必要。
- 看取りをどう捉えるかが難しいが、数値的な目標設定も一定の意義がある。
- 湖西市としても今後の高齢化や死亡場所の傾向などを踏まえ、将来的な見通しを立てた上での計画的な対応が必要

具体的な対応：

- 居宅支援事業所や訪問薬剤管理指導の増加に伴い、薬の手配や在庫管理の見直しが必要。
- 麻薬の管理が課題となっており、関係機関との連携が重要。
- 看取り支援は、単なる在宅死の数ではなく、「本人の希望の実現度」や「支援体制の整備状況」も含めて多面的に評価する必要がある。
- 多職種間の情報共有・事例検討を定期的に行い、地域全体でのスキル向上と課題共有を図ることが今後の課題。
- 薬剤・衛生材料を含む資源管理や麻薬の取り扱いなど、**実務面での連携強化**も地域包括的な視点で進める。

5. 議事（3）：在宅医療データベース調査アンケート及びお助けブック

事務局の説明：

- データベース調査アンケートの実施について説明。医療機関、歯科、薬局、訪問看護、介護施設等に協議会承認後実施予定。
- **修正点**：アンケート項目に関する修正があり、特に「変更なし」の項目にチェックを入れる項目が追加された。24時間対応可能な薬局の情報や居宅支援事業所の特定加算公表の項目も追加。
- 今後、Webサイトを活用したペーパーレス化を進め、情報の更新を随時行う。

6. 次回案内

- 次回の会議は1月28日（水）に予定。